

どん底で見つけた恵み

【聖書】創世記28章10～17節

ヤコブはベエル・シェバを立ってハランへ向かった。とある場所に来たとき、日が沈んだので、そこで一夜を過ごすことにした。ヤコブはその場所にあった石を一つ取って枕にして、その場所に横たわった。すると、彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた。見よ、主が傍らに立って言われた。「わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今横たわっているこの土地を、あなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る。見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」ヤコブは眠りから覚めて言った。「まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった。」そして、恐れおののいて言った。「ここは、なんと畏れ多い場所だろう。これはまさしく神の家である。そうだ、ここは天の門だ。」

【序】荒野の一人旅

ヤコブは従者も連れず、一人でトボトボと歩いていました。荒地の中の石だらけの道です。彼はアブラハム、イサクと続いたイスラエルの三代目族長となる祝福を父イサクから受けたばかりでした。族長の御曹司がどうして危険な一人旅をしているのでしょうか。それは彼が、**不正な手段で祝福を横取りした**からです。

彼は**母と共謀**して兄エサウの着物をまとい、子山羊の皮を身に付けて毛深い兄になりすました。そして年老いて**目が見えなくなっていた父**をだまして、父が兄に授けようとしていた祝福を受けました。跡目相続の決定は、一度下されるともう変更できません。自分の間違いを知って、父イサクは体を激しく震わせて後悔しました。出し抜かれた**エサウ**は激しく怒り、ヤコブを殺すと息巻きました。

母リベカはやむなく秘蔵息子のヤコブを、遠く**1000km**も離れた自分の実家に逃がすことにしたのでした。かつてアブラハムは、自分の最も信頼する僕にイサクの嫁選びを命じて、出身地のハランに遣わしました。僕はらくだ10頭に高価な贈り物を積み、多くの従者を従えた行列で旅に出かけました。そして三国一の花嫁リベカを連れて御曹司イサクの許に戻って来たのでした。その道をイサクとリベカ夫婦の子**ヤコブ**がただ一人で歩いていたのです。まだ旅を始めたばかりです。どんなに心細かったことでしょう。

【1】どん底の闇の中で

夜になりました。野獣の遠吠えが聞こえます。盗賊が襲ってくるかもしれません。砂地の石を枕に、

地べたに横になりました。族長の両親の許で過してきたこれまでの夜とは全く違います。「お前は本当にエサウなのか」と目の見えない父は幾度も念を押しました。それを神に誓ってまでして、嘘をつき通したのです。この惨めな状態は、彼のあくどい所業の当然の報いです。自業自得です。誰をうらむことも出来ません。これからどんな人生が待ち受けていることでしょうか。

ところがこのどん底の夜に、彼は不思議な夢を見たのでした。天に達する階段が地にまで伸びてきて、神の御使いたちが上ったり下ったりしています。そして神さまご自身が彼の傍らに立って、声をかけて下さいました。「わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今横たわっているこの土地を、あなたとあなたの子孫に与える。あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべてあなたとあなたの子孫によって祝福に入る。見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行ってもわたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしはあなたに約束したことを果たすまで、決して見捨てない。」

ヤコブが横たわっている地と神さまが居られる天とが、階段で通じていて、天使が上り下りしています。これは天と地上との交流の有様です。祈りの通路を意味します。ヤコブの祈りを天使が携えて神さまに届けてくれ、神さまの答を携えて下ってきてくれている。恐らくヤコブは、人生で初めて立たされている孤立無援の状況のもとで、必死に祈ったのではないのでしょうか。祈って祈っているうちに、神さまが彼の傍らに立って、静かに語りかけて下さる霊的体験を味わったのでした。

神さまは先ずご自分を、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主であると名乗られました。太陽を神さまとして拝む人がいます。火を神さまとして拝む人もいます。その他、海や山や大きな木や岩が、超越的な力を持つ神さまとして拝まれます。或いは偉人英雄を神として、その助けと守りを祈願します。お札やお守りを買って求めて、肌身につけて、祈願の成就を期待します。

ところが神さまはヤコブに、彼の祖父や父が生涯かけて信じた神、彼らの人格形成に深い影響を及ぼし、祝福して下さった神だと名乗られました。神さまは人格を持つ私たちには言葉をもって語りかけ、祈りによって人格的に交わり、導き、助けてくださるお方なのです。

ヤコブが今一人で身を横たえているこの土地は、神さまがアブラハム、イサクに「あなたの子孫に与える」と約束なさった同じ土地であり、その約束をこんなヤコブにも受け継がせてくださると確認して下さったのでした。そればかりではありません。「あなたがどこへ行ってもあなたと共にいて、あなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。」「わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」とまで、おっしゃって下さったのでした。なんとねんごろなお言葉でしょうか。

父を欺き、兄を出し抜いて家に居れなくなり、荒野に独り野宿しなければならなくなったヤコブです。神さまから見捨てられて当然の罪深い男です。勝ち組から転落した哀れな負け組です。ところが神さまはそれを一言も咎めないどころか、アブラハム、イサク同様に祝福を受け継ぐ者として、約

束を果たすまで決して見捨てないと語りかけてくださったのでした。驚くべきことではないでしょうか。

とんでもない悪を行った者を一言も叱らずに、「私はお前と共にいる。お前がどこへ行こうとも守る。決して見捨てない。必ずここに連れ帰る」と約束してくれるこんな親が居るでしょうか？ こんな連れ合いがいるでしょうか？ こんな上役や友人が居るでしょうか？ アブラハムを選んで導き出し、イサクに約束の祝福を受け継がせた神さまが、三代目のヤコブにも、ご自分がこのような神なのだとはっきりとお示しになったのでした。神さまがこのように揺るがない愛の神さまであることを、私たちはよくよく心に刻んでおかなければなりません。

[2] 一夜の夢で終らせず

ヤコブは眠りから覚めて言いました。「まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった。」日本には「正直の頭に神宿る」という諺があります。正直な人には、必ず神の加護があるものだという教えです。これが社会の常識です。ですからヤコブにしても、欲張りで嘘つきな自分の傍らに神さまが立って下さり、こんなに優しく、豊かな恵みを約束して下さるなど、思いもよりませんでした。だから驚き恐れおののいたのでした。

神さまが居て下さらない場所など、この世界にはないのですね。どんな人の傍らにも神さまは居て下さるのです。神さまが居ないと嘆くのなら、傍らに立つ神さまに当人が気がつかないのです。ヤコブも「わたしは知らなかった」と言っています。しかし惨めな状態に落ち込んでも、心を注いで祈っているうちに、傍らに立ち、語りかけて下さる神さまに気付いたのでした。私たちがいざという時に、差しのべて下さっている 神さまの手に、我が身を委ねる信仰を持っていたいものです。

「これはまさしく神の家である。そうだ、ここは天の門だ」。こんな者の所にまで神さまは来て、語りかけて下さっている。ここは神の家に違いない。ここが天国への門なのだ。何時までも天国の門口にただずんではならない。神さまの御座近くに進み出て、御傍に生きるものにならねばならない。ヤコブは次の朝早く起きて、枕にしていた石を取り、それを記念碑として立て、先端に油を注いで、そこをベテル(神の家)と名付けました。

夢は通常目が覚めると記憶に残りません。ですから不確かなこと、はかないことの代名詞として使われます。しかしヤコブは、枕にしていた石を掘り出して、油を注いで聖なる記念碑にしました。単なる夢で終らせないという決意です。祈りによって与えられたこの霊的な体験を、人生の新しい出発点にしよう。そして、ここで聞き取った神さまの言葉を土台として、自分の人生を築いていこうと決心したのでした。

[結] 十字架に示された神の愛を信じて

去る4月に一人の若者が自殺しました。「人殺しの家族として生きていくことは苦痛そのものだった」と遺書に記されていました。彼の兄は6年前に人混みの秋葉原の交差点にトラックで突っ込み、

路上に倒れた人や通行人をナイフで突きまくり、7人を殺し、10人を負傷させたのです。現在**死刑判決**が最高裁で審議中です。

犯人は教育熱心な母親にしごかれて、優秀な生徒として小中学校を過ごしました。作文は教師受けする言葉に母が添削します。母の質問に10数えても答えられないとビンタがとびました。廊下に新聞紙を敷き、ばらまかれた食事を犬のように食べさせられたこともありました。青森高校に進み、北大工学部を目指しましたが成績低迷。学歴社会の勝ち組にしようと必死になる母への反発から、卒業すると家出して青森から遠く離れた岐阜の短大に入学しました。

契約社員を転々として25才になりました。犯行2日前のサイトに遺した言葉「ああ、住所不定になったのか、益々**絶望的**に。やりたいこと、**殺人**。仕事に行けと言うなら行ってやる。流れて来る商品**全部破壊**してやる。彼女がいれば、仕事を辞めることも、車をなくすことも、夜逃げすることも、携帯に依存することもなかった。**勝ち組**の奴にはわかるまい」。二日前に福井に行って両刃のナイフを6本買い、前日に沼津で貨物車をレンタルし、当日昼に秋葉原に到着したのです。

ヤコブは策略をめぐらせて勝ち組になりましたが、次ぎの瞬間、負け組に転落してしまいました。長い人生を勝ち組ばかり続ける人など滅多にいないでしょう。大事なものは、負け組になっても生き抜いていくことです。そのために、神さまの大きな**揺るがない愛の語りかけ**を聞くことです。ヤコブはどん底で**素晴らしい夢**を見ました。必死に祈ったからです。

神さまは、ヤコブの罪を咎めずに、黙ってどん底から引き上げて下さいました。その**神さま**は、後に**イエス・キリスト**という歴史上の人物となってこの世にご**自身を現**して下さいました。そして、すべての人間の罪をご自分に引き受け、**十字架**にかかり私たちに代って罪の裁きを受け、**贖いの死**を遂げて下さいました。こうして**神の愛**を明確に啓示して下さいました。どん底のヤコブを立ち直らせて下さったのは、**この愛の神さま**なのです。

ヤコブはどん底に落ちたからこそ、この貴重な霊的体験をすることが出来ました。**負け組・どん底**、悪くありません。恐れる必要はないのです。大切なのは、アブラハム、イサク、ヤコブをあのよう導いて祝福して下さった**神さま**を**しっかり信じて**、祈ることです。ヤコブはその**祈り**を親のイサクとリベカから学びました。イサクとリベカは晩年に会話の欠けた孤独な夫婦になってしまいましたが、それでも**親の第一の務め**を立派に果たしたのです。私達も**ヤコブの見た夢**を見る者になりたいものです。

教育熱心な余りに、息子を二人とも失ってしまった親御さんは、今どうして居られることでしょうか。自分を全否定された境地でしょう。どんなに**お辛い**ことでしょうか。でも生き抜いていただきたいと切に願います。貴方をも神さまは心から愛して居られるからです。貴方のためにご自分の命を投げ出して、貴方の罪を引き受けて十字架について死んで下さっているのです。その愛の神さまが**貴方の傍ら**に居て下さっています。新しく生きなさいと手を差し伸べて下さっているのです。

ヤコブは「まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった。」と言いました。貴方は息子を二人とも失ってしまわれました。しかし全くの孤独ではありません。「お前と共にいて、お前を守る」とヤコブに約束なされた愛の神さまが、貴方の傍らにも立って居られるのですから。貴方の失敗の経験は、子育てに悩む世の母親達にとって、貴重な助言となります。次の世代の幸せのためにご自分の**深い悲しみを役立てて**、生き抜いていただきたいものです。その後のヤコブのように、有意義な人生を生きて頂きたいものです。

この教会堂に来て、一緒に礼拝できたらと願わずにはおれません。何故なら正面高くに十字架が掲げられていますが、下からその十字架まで横木が梯子のように打ち付けられています。その梯子は更に十字架の上から天に向かってのびています。神さまとヤコブを結んだ**祈りの梯子**ですね。このような礼拝堂で、お母さんも私たちと一緒に、ヤコブに語りかけてくださった愛の神さまの言葉を聞きつつ礼拝を守って頂きたいものです。お母さんのために祈りましょう。

今日も幼子が大きな声をあげていました。神さまを呼んでいるのですね。嬉しいことです。私たちも我が子たちに、**天に通じる祈りの階段**をしっかりと示しましょう。

お祈りいたします

神さま、今日もヤコブを通して、貴方の真の愛をお示し下さって、有難うございました。ヤコブはど
ん底に落ちても一人ではありませんでした。貴方は一言も咎めたり、叱ったりしておられません。どうぞ神さま、私たちもその愛を頂いて、我が子、また周りの者と分かち合ながら、共々に励まし合って生き抜いて行く者にしてください。どうぞあのお母さんの上に、貴方のお救いをお願いいたします。

救い主イエス・キリストの御名によって、お祈りします。 アーメン

